とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0837
施設名	れんげ桜が丘保育園
施設所在地	東京都東大和市桜が丘3丁目44番地18号１７－１
法人名	社会福祉法人　蓮花苑

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

物の構造（動く　動かす）～本当に乗れる車を作ってみたい～

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
開放的な夏の季節。子ども達とのダイナミックな遊びの展開を計画。子ども会議を立ち上げる。数日前に読んでもらった絵本「もぐとぐるとうみかぜごう」からアイディアを思いつき「乗れるくるまを作ってみたい」との声があがる。一気にこども会議は〈乗れるくるま作り〉に動いた。

２．活動スケジュール

①乗れる車をつくるには…（４０分）
②動く！動かす！！（４５分）
③どんな仕組み？（４０分）
④考えを試してみよう（６０分）
⑤人が乗れる（載れる）車の組み立て①（６０分）
⑥人が乗れる（載れる）車の組み立て②（６０分）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
①図鑑（乗り物、車の構造）・ミニカーなどの玩具・子どもの要望によりゴム、風船を使用・記録用紙
②身の回りにある〈動くもの〉〈動く仕組み〉に気づける工夫（三輪車、ボール、フラフープを配置）
③ホールで活動。マット、ボール、ゴザ、ソフト積み木を準備
④段ボール、カラーポリ袋、ストロー、風船、輪ゴム、竹ひご、ガムテープ、はさみ、図鑑
⑤⑥段ボールシート、ガムテープ、アクリル板、木製の棒、絵の具、はさみ

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

「もぐとぐるとうみかぜごう」の絵本にイメージを受ける。実際に乗れる車を作るために必要な物（材料など）をグループ単位で思いつく限り挙げ、実際の工作活動等を通して検証。上手くいかなかったことについての改善点を出し合う（車の構造を知るにあたり図鑑などを活用）。グループ活動を通して気付いたこと（発見）を発表しあい、それらをもとに1台の車作り活動へと繋げていった。（タイヤ・デザイン・重さに耐える構造　それぞれの担当チームに分かれて実施）組み立て作業は１回目ではうまく進まなかった為、改善点についての考えをだし合い２回目に挑んだ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

各グループに保育者1名が入り活動を見守る。構造に注目する子、車のデザインにこだわりを見せる子、物が動く仕組みについて考える子、興味の方向は様々だったが各々の考えを出し合い、取り入れ合い活動が進んだ。１番の難関は活動の最終段階〈車の組み立て〉場面だった。動く為の形としてタイヤは丸い形と意見は一致し、作業が進むが「乗ったらタイヤが潰れてしまう・・・」「（軸となる）棒とタイヤはどうやってつなぐの？」「タイヤが回らない・・」と問題点が続出。そこでも「それいいね！やってみよう」と、どんな考えも1つの意見として肯定的に捉え実行に繋げていった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

「本当に乗れる車を作ってみたい」というテーマのもと、その関わり方は異なるが、どの子も真剣に向き合い考えていたということを保育者間で共感しあえた。特に、車を組み立てた段階での人が載る為に必要な強度、タイヤの構造についての試行錯誤場面では、互いに考えを出し合い何度も試していく子どもたちの行動力、その考えが成功につながった時の喜び、達成感の表情が見られた。それらの体験が子ども達にとっても、保育者にとっても次の活動意欲になっていたと改めて気づいた。